

幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」
 ①健康的な心と体②自立心③協同性④道徳性・規範意識の芽生え⑤社会生活との関わり
 ⑥思考力の芽生え⑦自然との関わり・生命尊重⑧数量や図形、標識や文字などへの関心
 ⑨言葉による伝え合い⑩豊かな感性と表現

入学時の児童の姿
 ■興味・関心をもったことに積極的に取り組んでいる。
 ●先生や友達に自分の話を聞いてほしい、話を聞きたいと思っている。
 ◆小学校生活での生活や学習に興味や期待感をもっている。
 ★体験や活動の中で、自分の考えや思いを言葉や数を使って伝えようとしている。

2023年度(令和5年度)福山市立加茂小学校
 “ひと・もの・こと”をつないだ
 スタートカリキュラム
 加茂小学校 教育目標
 ～ともに 学び 高め合う～

めざす子ども像
 ○学びを楽しむ・学びを活かす子ども
 (小) 知的好奇心を発揮して学習に取り組み、学びを楽しむ。
 (中) 学びを楽しみ、知識や経験を活用しながら自らの課題に挑戦する。
 ○夢を語る・自分のことを語る子ども
 (小) 自分の好きなこと・やりたいことを見つけて、夢をもつ。
 (中) 自分自身のことを理解し、自信をもって自分の夢や目標を語る。

育成する力
 ■自分で、みんなで、取り組む中で、課題を見出し、解決の形を考える力。
 ●様々な表現方法で、自分の考えや思いを伝えることができる力。
 ◆「やってみよう」とする意欲をもったり、友達に声をかけたり応援したりすることができる力。
 ★体験や活動を通して、学力の基盤となる言葉と数を獲得する力。
 ■課題発見・解決力 ●コミュニケーション力
 ◆あきらめない心 ★言葉と数の獲得

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
期	I					II					III		
育	■幼児期の遊びを生かして、学習面、生活面において何事も積極的に取り組もうとしている。 ●友達や先生と積極的に関わり、安心して自分の考えや思いを伝えることができる。 ◆先生や友達の話最後まで聞くことができる。 ★体験や活動の中で、知っている言葉や数を積極的に使っている。					■生活や学習の中で「なぜ?」「どうして?」と思うことを見つけ、その課題に積極的に関わろうとしている。 ●友達や先生だけでなく、上級生や年長児とも楽しく関わり、それぞれに応じた接し方ができている。 ◆課題に対して自分の考えをもったり、先生や友達の話最後まで聞きながら挑戦したりすることを楽しんでいる。 ★体験や活動の中で自分の考えや思いを言葉にしたり、新たに知った言葉や数を学習で使ったりしている。					■見つけた課題について友達や先生と対話をしたり、調べたりしながら協力して解決に向かおうとしている。 ●自分と友達の違いを比べて聞いたり、伝えたりしながら、互いの考えを大事にしようとしている。 ◆自分の成長やよさを感じ、やってみようという意欲をもったり、友達に声をかけたり応援したりすることができる。 ★新しい言葉や数に関心をもち、積極的に使おうとしている。		

生活科を中心とした単元構成

生「がっこうとなかよし」
 ・学校探検を通して、施設の場所や使い方を知り、学校生活に安心感をもつことができる。●
 ・場に応じた言葉を使ったり、見つけたことを話したり、数えたりする。★
 国「おはなしたのしな」
 算「なんでものつづき」
 道「10までのかず」
 学「なんぼんめ」
 体「あかるいあそび」
 学「はじめてのしょうがっこう」

生「おもしろいあそびがいっぱい」
 【シャボン玉の道具を作り、年長児を招待する。】
 ・夏の遊びを想起し、他教科と関連を図り、砂遊び、水遊び、シャボン玉遊びなどを友達と工夫しながら行う。●
 ・試行錯誤したり楽しかったことを絵や文に表したりする。◆★
 国「こんなことがあったよ」
 算「しよかんへいこう」
 音「あそび」
 体「すなやつとなかよし」
 学「みずあそび」

生「いきものとなかよし」
 ・生き物を探して生き物を飼育し、観察したり調べたりして、生き物に親しみをもつ。●
 ・観察した動きや形を言葉や体で表現したり、足の数を数えたり分類したりする。◆★
 国「うみのかくれんぼ」
 算「10よりおおいかず」
 体「表現あそび」
 道「げんきてねあげはくん」

生「おいでよ あきのテーマパーク」
 【秋の自然物を使ったおもちゃを作り、年長児を招待する。】
 ・相手意識をもって友達と協力して作る。●
 ・年齢児に対して思いやりをもって接する。◆
 ・おもちゃの並べ方を考えたり、時間を計ったり、得点を計算したりする。★
 国「ものなまえ」
 算「15たす20で35ポイントだよ。すごい!」
 音「はしのうえのおおかみ」
 道「はしのうえのおおかみ」

生「ふゆとなかよし」
 ・身近にある冬を見つめたり、冬の自然状況を生かした遊びを工夫したりして、友達や異学年と遊ぶ。●
 ・遊び方を上級生に聞いたり、友達同士で話し合ったりして楽しむ。◆
 ・時計を見て行動したり、数を数えながら遊んだりする。★
 算「20よりおおいかず」
 音「はしのうえのおおかみ」
 道「お正月」

生「はるをさがそう」
 ・身近な場所の植物や生き物の変化を見つけ、春の訪れを感じる。●
 ・春への変化を冬と比べて話し合ったり、絵や文で表したりする。◆
 ・見つけたものを数えたり分類したりして表す。★
 算「大きくなった」
 道「かずをせりしよう」

生「もうすぐ2年生(学校ごっこ)」
 【自分たちの成長を振り返ったり、新1年生を招待して、授業をして見せたり、学校を案内したりする。】
 ・自分たちの成長を4月と比較して言葉や文章で表現する。◆
 ・新1年生に自分たちができることを考える。●
 ・相手意識をもって新1年生へ分かりやすい表現で案内するための準備をする。◆★
 ・年齢児に対して思いやりをもって接する。●
 国「これは何でしょう」「いいこといっぱい1年生」
 算「手がみてしらせよう」
 音「あそび」
 体「多様な動きをつくる運動遊び」
 学「大きくなった」
 道「2年生をむかへよう」「加茂フェスティバル」

生「はなや やさいとなかよし」
 ・幼児期の学びを生かして、アサガオの植え方や育て方を話し合ったり、関心をもって世話をしたりする。◆
 ・成長の様子を観察して、絵や文で表したり、花や種の数を数えたりグラフに表したりする。◆★
 国「おおいくなった」算「かずをせりしよう」

・入学式に向けてチューリップの球根を植える。■
 ・1年生入学への期待を込めて、年長児とともに、チューリップの成長に関心をもつ。●
 ・形の違う球根を3つ植え、それぞれの成長の違いに関心をもって観察し、絵や文に表す。★

環境構成

4月 なかよしタイム 弾力的な時間割の設定 (楽しい気持ちで1日がスタート!)

【朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する活動を位置づける。】
 ○登校～8時30分 登校してきた児童から担任の先生と朝の挨拶と健康観察⇒好きな遊びを楽しむ。
 ○8時30分～8時45分 朝の会・自由遊びの振り返り
 ○8時45分～9時10分 各クラスで遊びを楽しむ。(金曜日は学年遊び)
 ・登校時に担任がゆとりをもって関わりをもてるように、8時30分までは、安全面も考慮して複数の職員で見守る。
 ・なかよしタイムの内容も含めた週案を各クラスで作成し、4月は、同じ学習内容を繰り返す連続性と、少しずつ内容が高まっていく発展性を意識する。

通年 学校図書館や学級図書がすぐに見られる環境
 ・興味があるものをすぐに調べられるようにする。

柔軟な学習形態
 ・学習内容に応じて教室以外の場所を使ったり、机や椅子を取り払ったりした学習形態の授業を行う。

つぶやきを大切に授業
 ・「どうして」「わからない」「やりたい」というつぶやきを大切に、それを価値づけていく。

学科的・関連的な指導
 ・生活科を中心に、つながりのある他教科等のねらいを考える。
 ・活動をゆったりとした時間の中で進めていけるように2時間続きなどの学習活動を位置づける。

視覚的支援
 ・片付けの場所や生活の流れなどを、絵や写真で可視化して提示する。

異学年との交流
 ・縦割り活動を通して、交流を行い、人との関わり方や活動の仕方を学ぶ機会をもち、園児への関わり方へ生かす。

連携

幼保	6月 なつはおもしろいことがいっぱい 幼稚園、保育園に出向き、生活科で作ったシャボン玉を飛ばす道具と一緒に楽しむ。	10月 チューリップの栽培 年長児にチューリップの成長の様子を絵や手紙などを通して伝えていく。年長児と共に開花を楽しむ。	11月 秋のテーマパーク 「秋見つけ」で見つけた自然物を使って、年長児と一緒にテーマパークを創り、お互いをおもてなしして楽しむ。	2月 学校ごっこ 1年生が年長児を学校に招待して授業をして見せたり、校内を案内したりする。	
中学校	7月 職場体験 中学2年生が幼保小へ出向き、職場体験を行う。	11月 読み聞かせの会 中学3年生が幼保小へ出向き、読み聞かせや絵本に係るゲームなどを行う。	2月 ボランティア活動 中学生が幼保小へ出向き、ボランティア活動を行う。		
職員	4月 スタート訪問 各園の先生に本校校にいらしていただき、読み聞かせ等をしていただく。子どもたちの安心感へつなぐ。	6月・11月・2月 授業交流会 事後研修 ・小学校の授業の様子を見ていただき、授業の感想をもったり、個の交流を行ったりする。	8月・12月 授業交流会 事後研修 ・幼稚園・こども園の保育の様子を小学校の職員が参観し学ぶ。 ・保育活動の工夫を校内で交流し、教育活動に生かせるようにする。	7月・1月 授業交流会 事後研修 ・中学1年生(7月)、6年生(1月)の授業の様子を幼保小中の職員が参観する。 ・事後研修で交流し、つながりのある教育活動になるようにしていく。	連携協議会の実施(4月、9月、11月、2月、3月) ・スタートカリキュラムの編成、個の交流、児童の様子との交流行事の打ち合わせ、実践の交流など
家庭	4月 学年通信や学級懇談会で協力依頼 ・宿題や時間割などを詳しく提示し、協力を依頼する。 ・保護者が安心して送り出せるように配慮する。	通年 発信・連絡・共有 ・通信等で日々の授業や活動、児童の様子や頑張りを保護者と共に共有し、保護者との信頼関係を構築していく。	お知らせ・協力依頼 ・図画工作科や算数科、生活科等で使う空き箱や容器などの材料集めをお願いする。 ・連絡帳にサインをもらう。お家の人に向けて書いた文章などにコメントをもらう。 ・規則正しい生活を送ってもらえるように呼びかけをする。	3月 成長の報告 ・1年間の成長をスタートカリキュラムを踏まえてお知らせし、保護者にも成長を感じてもらい、2年生へ期待をもっていたく。	連携通信の発行(幼保小中職員・保護者へ配布) ・連携協議会の内容や子どもの様子について意識統一を図る。